


受賞者氏名	中野久松	
所属	名誉教授（理工学部 電気電子工学科）	
受賞年月日	2022年2月14日	
国内・国外	国外	
授与機関等名称	米国電気電子工学学会(IEEE)・アンテナ伝搬ソサイエティ	
受賞名	IEEE アンテナ伝搬ソサイエティ雑誌副編集者としての 6年間にわたる顕著なサービスに対する 栄誉表彰	
受賞(研究)内容詳細	<p>米国に本部を置く電気電子工学学会（IEEE）は、電気、電子、情報、通信分野に関する世界最大規模の学会である。約 160 の国・総計 40 万以上の人々が IEEE に所属している。本学会は複数のソサイエティで構成されており、各ソサイエティは最新の研究成果を取りまとめ、紙版・電子版での論文誌 (Transactions) を一定の月間隔で発行している。これに加え、ソサイエティによっては学術雑誌(Magazine)をも発行している。</p> <p>私は 1975 年に IEEE アンテナ・伝播ソサイエティ (APS) の会員になり現在に至っている。この間、1991 年から 2020 年まで APS・学術雑誌の編集に携わってきた。振り返れば、30 年近くボランティアで編集活動をしてきたことになる。2001 年には功績が評価され米国テクニカルコミュニケーション協会から「顕著テクニカルコミュニケーション賞」が授与された。今回は、所属する APS が、私の最近 6 年間にわたる副編集者としての功績を顕彰して下さった。</p> <p>APS・学術雑誌には、産業界、政府、大学で行われているエンジニアリング活動が掲載される。同誌は、特定の主題、あるいはさまざまな組織が抱える技術的な課題、およびこれらの課題に対処する方法を読者に提供している。レビュー記事、啓蒙記事、歴史的記事なども掲載され、硬軟両面から紙面の充実が図られている。</p> <p>私の主たる APS・学術雑誌における任務は、1. 世界が直面する技術問題を探索すること、2. その問題に対して解決策を有する研究者を探し出すこと、3. 該当する研究者に原稿執筆を依頼すること、4. 出来上がってきた執筆原稿を読み込み、時には原稿の質的向上を図るために再考を依頼すること、5. そして最後に公刊（印刷）へと導くことである。公刊にあたり、原稿内容の「適時性 (timeliness)」に加え、「読みやすさ(readability)」をも視野に置いて任務を遂行してきた。原稿は読まれて初めて意味を持つからだ。多くの読者に読んでもらうために「読みやすさ」は無視できない。</p> <p>他の任務としては読者からの APS・学術雑誌への寄稿原稿を整理し、それら原稿の同誌への掲載可否を決定することである。寄稿原稿を複数の専門家に読んでもらい、その結果を参考にして掲載可否の決定を行うという点では、論文誌への「投稿論文の掲載可否の決定」と同じである。多い時には 1 か月 6 件の寄稿原稿を処理したこともあった。</p> <p>さて、毎年、一年間にわたり上述の作業が終わると、編集委員会は規約に従い、その年に掲載した全ての原稿の中から優れたものを複数編選びだし、これらに順位をつける。その結果を APS 本部に報告書として提出する。この報告書は、APS 本部が「学術雑誌賞 (1 件)」を決定するための基礎資料として使用される。私は 6 年間の編集活動において掲載原稿に順位を付けることの難しさを何回か経験してきた。それは複数の優れた原稿がどれもオンリーワンであってどれもナンバーワンのレベルにあったからだ。</p> <p>最後にこれまで編集に協力を頂いた世界中の多くの執筆者に深謝申しあげ、編集者としての任務を終わることにする。</p>	